

# 長崎県の春の魚

春にふさわしく、輝くピンク色が美しいアカアマダイについて、毎回興味深い解説をいただいている、長崎大学水産・環境科学総合研究科教授の山口敦子先生にお尋ねしました。

先生、この魚は冬から春にかけて鮮魚店で見かけますね。

「はい。『長崎県の春の魚』にも選定されているアカアマダイは、関東・青森以南の水深五十〜一五〇メートルの海域に生息する、温帯性の魚です。東シナ海でも最も漁獲量が多く、旬は秋から春先にかけて。寿命は十年程度、雄の方が大きく成長します。アカアマダイの幼魚は、海底にトンネル状の巣穴を掘ることが知られています。アマダイ類が英語で『ゴブ』(トンネルを掘る魚)と呼ばれるのはそのためです。飼育下では、泥を口でくわえては外に吐き出すという作業を繰り返し見事なトンネル状の巣穴を完成させ、入り口から頭を出しているところが観察されています。ただし、アカアマダイは深い海底に棲んでいるために、天然の海域での観察例はほとんどありません。ちなみに、タイの名が付いています。タイの仲間ではありませんか？」

「はい。スズキ目アマダイ科です。」

日本には五種のアマダイが生息していますが、そのうち三種が主に食卓にあります。体色にちなみ、アカアマダイ(赤)、シロアマダイ(白)、キアマダイ(黄)と名付けられています。とは言っても、実物を正確に見分けるとはなかなか難しいんですよ。グラバー図譜で精緻に描かれたように、アカアマダイは全体に鮮やかな赤色を帯びています。眼の後縁から三角形の白色斑紋が筋状に伸びているのが特徴で、尾びれの黄色い縞模様など要所に見られる黄色が、全体を華やかな配色に仕立てています。なるほど、三種類並べてみると、わかりにくいかもしれません。

## アカアマダイは美しき尼僧

「アカアマダイの横顔(頭部)に注目してください。額が少し出ていて、うるんだ大きな瞳と穏やかな顔つきは、剃髪してはおかむりをした尼僧のように見えませんか？ アマダイが漢字で『尼鯛』と書かれることがあるのはそのためです。」

確かに特徴のあるおでこです。「鯛が高級魚とされるようになったのは江戸時代に入ってからで、アマダイと呼ばれるようになったのもその頃からのようです。室町時代

の書物には、頭が大きく角張っていることにちなみ、アマダイのことを『方頭魚』、あるいは『屈頭魚』と書かれています。『養生訓』で有名な貝原益軒は、『大和本草(二七〇九年)』の中で方頭魚について、『病人に良し』と紹介しています。高タンパク・低カロリーで、ほんのり甘くて淡泊な白身が、健康にもよいとされたのでしょう。」

確かに、ふわっと食感も柔らかく食べやすいですね。

「アマダイは、関東では『興津鯛』、関西では、くずなが次第になまって『アジ』と呼ばれています。京料理でも欠かせない食材で、昔は、若狭湾で獲ったものをすぐに背割りにし、浜塩をして京都まで運んだそうです。京都に着くころには適度に水分が抜けて、身が締まり、旨みや甘みが一層引き出されます。アマダイの若狭焼きといえば、鱗がついたまま、皮目をカリッと身をふっくらと焼きあげたもの。北大路魯山人は、興津鯛と若狭アジを比べて「一見同じものだが、色が若狭ものは淡赤く桃色であり、興津だいた称する甘だいは通常のたいと同じくらい赤色を呈している。ぐじの方は鱗ごと焼いても食えるが、興津だいたの方は剥がさねば食えない」と記しています(『料理王国―春夏秋冬―中公文庫』)。

ところで長崎では、アマダイは味噌焼きが人気で、お刺身ではあまり

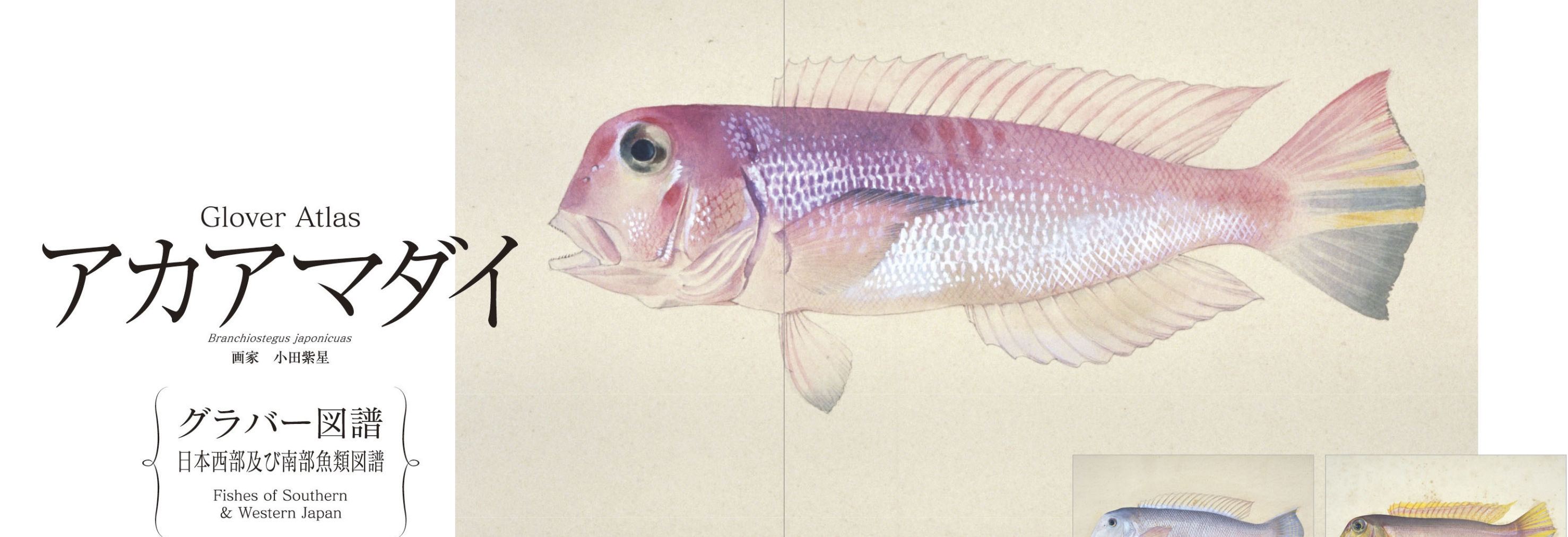
食べません。

「身に水分が多くて柔らかいため、刺身にすると今一つでは...と思われていますが、とんでもない。鮮度のよいアカアマダイの刺身を食べると、少しねっとりとした上品な甘みと旨みが口のなかに広がり、記憶に刻み込まれる美味しさです。昆布締めもよし、干物は言うまでもなく、蒸し物から揚げ物まで、調理方法を選ばない優れた食材なんです。」

いろいろな調理法で食べられるアマダイ。長崎でたくさん水揚げされるのは、長崎人の幸運の一つと断言していいですね。



**解説 山口敦子**  
長崎大学水産・環境科学総合研究科教授  
Yamaguchi Atsuko  
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に『干潟の海に生きる魚たち―有明海の豊かさど危機』(東海大学出版)など。



# Glover Atlas アカアマダイ

*Branchiostegus japonicus*  
画家 小田紫星

グラバー図譜  
日本西部及び南部魚類図譜  
Fishes of Southern & Western Japan

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。  
<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>



シロアマダイ (*Branchiostegus albus*) 画家 萩原魚仙



キアマダイ (*Branchiostegus auratus*) 画家 長谷川雪香